

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	8
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	0
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	0
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1
1. 一人ひとりの把握	5
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1493500191
法人名	社会福祉法人愛光会
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 みなみ栄
訪問調査日	平成26年3月14日
評価確定日	平成26年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

(株)R-CORPORATION外部評価事業部

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493500191	事業の開始年月日	平成25年2月1日
		指定年月日	平成25年2月1日
法人名	社会福祉法人 愛光会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 みなみ栄		
所在地	(247-0025) 神奈川県横浜市栄区上之町18-9		
サービス種別 定員等	■ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	24 名
		通い定員	12 名
		宿泊定員	4 名
	□ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年3月4日	評価結果 市町村受理日	平成26年8月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して1年が経過しますが、地域との繋がりを大切にしてきました。利用者の方の生活を大切に、個別ケアを重点に小規模多機能の特性を活かしたサービスを提供しています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成26年3月14日	評価機関 評価決定日	平成26年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームは社会福祉法人愛光会の経営です。社会福祉法人愛光会は創始者が、運輸、保育に次いで、高齢者福祉に貢献したいと想いから特養「みなみの苑」を中心として高令者福祉施設を展開し、横浜、相模原にグループホーム6施設、小規模多機能2施設、デイサービス1施設、高齢者専門住宅各1施設を展開しています。このホームは25年4月にグループホーム、小規模多機能、高齢者専門住宅各1施設の複合施設として開設しました。地理的にはJ R線大船駅からバスで15分程度、バス停から歩いて4～5分のところにあります。高台に開発された一戸建て中心の団地として開拓された公田、桂台、上之の一角にあります。辺りは林だった地域ですが、団地の範囲は整備され、緑は庭木程度ですが広い意味での周囲には林の名残はあります。法人の理念は「安心、安全、信頼」であり、グループホームでは実現に向けて独自の理念を開設時に作成し、展開しています。

②教育については、社会福祉法人愛光会として、本部のある特養「みなみの苑」を中心とした教育計画がありますが、みなみ杉田とみなみ栄は本部と離れており、各々独自で教育を行っています。新管理者は赴任後、訪問介護、ディサービスでの職員の取り組みについて、教育の見直しを図り、小規模の良さ・特徴から改めて職員に説明し、分らない場合は先ず「聞く」という点から取り組みました。その効果があつて最近は幅広い介護が提供できるようになり、小規模の良さが発揮出来る体制が出来ました。職員には、出来ないことを探すより、利用者が出来ることを探し、行なってもらい、そして楽しく、笑顔になって貰えるように、と伝えています。

③地域との交流については、開設して1年なのでこれからですが、徐々に広げて行く方針で取り組んでいます。町内会のサロン（ハイリスク高齢者の集まり）、上郷地区民生委員との交流、金沢区役所の見学受け入れ等、一つひとつ、地域との関係を広げていきます。地域の代表である運営推進会議を活用し、運営推進会議のメンバーは地元の方なので、その人脈の活用を図り、自治会長を通して自治会の行事への参加や、民生委員を通じ高齢者（老人会など）との交流、近隣の子ども（保育園、幼稚園）と相互交流等をすすめていきます。地域包括支援センターとは地域事情の把握や、利用者の紹介、イベントへの参加等を通じて地域との交流の基盤を作りたいと考えています。更に、隣の老人保健施設との交流も図って行きます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所みなみ栄
ユニット名	

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「安全・安心・信頼」を基盤にして、さらに「その人らしさ」を大切にしたいケアを行う事を目指しています。また、入職時に理念について口頭で説明し、玄関にも掲示しています。	法人の理念である「安全・安心・信頼」を基盤にして、さらに「その人らしさ」を大切にしたいケアを行う事を目指しています。1年の振り返りを小規模の理念を皆で考えて作り、毛筆で書いて掲示しました。毎年、創立記念日には気分を新たにし、理念の確認をしていくことにしたいと考えています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回地域のサロンに参加しています。どんど焼きなどの地域の行事にも積極的に参加しています。	自治会の入会は小規模として賛助会員で加入している他、サービス付き高齢者専門住宅の人は個人でも加入しています。自治会の「サロン上之」夏祭り、など楽しみに参加しています。お隣の老健湘南グリーン上郷とのお付き合いや、地域包括支援センターの家族会にも行っています。ボランティアは二胡と歌の方、お習字、傾聴、折り紙の人などが来てくれています。「サロン上之」には法人理事長が鯉のぼりを寄付しています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小規模多機能型居宅事業所を地域の方々に知ってもらう為、パンフレットの配布や掲示を行っています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームと合同で、2ヶ月に1回実施しています。自治会・地区センター・包括職員・家族・利用者・地域住民の方々に参加していただいています。施設側の活動状況報告・地域の行事のお知らせを行っています。家族等から要望・質問も受け付けています。	運営推進会議はグループホームと合同で、2ヶ月に1回実施しています。自治会・地区センター・包括職員・家族・利用者・地域住民の方々に参加して頂いています。施設側の活動状況報告・地域の行事のお知らせを行っています。家族等から要望・質問も受け付けています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の受け入れ、困難事例時の対応方法の相談、認定調査員との連絡・調整・立ち合いを行っています。	栄区役所とは副施設長が開所に当たっての人員基準等で打合せを持っています。また、生保担当者との連携、困難事例の相談、新規入居者の受入れ時など、疑問点がある場合には、迅速に連絡し、連携をとっています。横浜市は研修に参加しています。認定調査員との連絡・調整・立ち合い等も行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、法人としての規定が定められており、職員もいつでも閲覧できるようになっています。	身体拘束についての規定が定められており、職員もいつでも閲覧でき、原則身体拘束は行っていません。止むを得ないケースの場合は同意を得た上で実施することになっています。（勿論まだ実例はありません）玄関は電子錠になっています。利用者が出たい時には、職員と一緒に寄り添って出ています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で、虐待に関する事項が定められています。職員は、いつでも閲覧できるようになっています。また、日常的な管理者と職員間の話し合いの中で虐待がおこらないように意識を高め、防止に努めています。研修にも積極的に参加しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なお家族に対して機会をみて制度の説明や連絡先、手続きの助言を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、小規模多機能型居宅事業所の特色や他施設との違い、日常生活で関わってくる細かな説明を行っています。また、不明な点がないか確認を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見・苦情の連絡先を記載しています。管理者・職員は、何か意見があるかどうか日頃から注意を払い、送迎時に声掛けを行なっています。また、家族会での意見聴取も行なっています。	重要事項説明書に意見・苦情の連絡先を記載しています。管理者・職員は、何か意見があるかどうか日頃から注意を払い、送迎時に声掛けや連絡帳などで伺うようにしています。また、家族会での意見聴取も行なっています。介護計画更新時にもご意見を伺っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃コミュニケーションをよくとり、職員から話を聞くように心がけています。また、月1回の会議の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けています。	職員の意見は基本的には月1回の会議の中で意見や提案を聞く機会を設けています。また、日常的な会話の中でスタッフとコミュニケーションをとるように努めています。個人的な意見・相談については個別の面談も行っています。面接は副施設長、栄施設長を交えて行い、夜勤の時に来てもらっています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、法人独自の業績評価制度を実施し、管理者等より情報収集を行い、職場環境・条件の設備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、積極的に参加し、参加した際には、レポートを作成し職員間で共有できるようになっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人本部や包括の通常型デイサービスを見学しています。また、新規で開所する施設の職員研修を受け入れています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用決定前に、本人との面接を行っています。その際に、本人と話す機会を多くもつようになっています。また、当施設見学をすすめています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階から見学に来ていただいたり、自宅を訪問し面接を行ったりと数回話を聞く機会を設け、困っている状況などを把握しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態（病歴など）の確認、家族の求めているサービスの確認、本人が何を望んでいるのかを把握してから、話を進めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの生活歴などを把握し、特技などを活かせる様なレクリエーションの内容を考えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に対して送迎時に、日常の様子を細かく話す事で、相談や助言を互いに行い、本人を共に支えあっています。また、毎日連絡帳を記入し、情報提供を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の友人が訪ねてきた際には、ゆっくり過ごす事が出来るように、場所を提供しています。	小規模の最大のメリットはこの項目にあります。本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れない状態で利用できる点です。こちらに、近所の友人が訪ねてきた際には、ゆっくり過ごす事が出来るように、場所を提供しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係を把握しており、散歩やレクリエーションの際には、お互いが自然と関わり合える様に配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も電話連絡を行い、状況を聞いたり、入居先の施設に訪問の際は、顔を出したりしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	散歩やレクリエーションの参加など利用者さんのその時の要望を自分自身で伝えられるように声かけを行っています。	散歩やレクリエーションの参加など、利用者のその時の要望を自分自身で伝えられるよう、声かけを行っています。施設利用前の面接、利用開始後のモニタリングを行い、本人の意見を傾聴し、利用者の思いを把握し、職員に伝えています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時だけではなく、本人の状況に応じて、家族から話を聞いたりして、本人の生活歴などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子やバイタルチェック・排泄・水分量などを業務日誌・個人記録に記入し、本人の生活状況を把握するように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員・関係者などから情報の収集を行なっています。	本人・家族・職員・関係者などから情報の収集を行ない、月1回のモニタリング、カンファレンスで介護計画はチームで作っています。インテーク時はチェック表を使って行なっています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を業務日誌や個人記録に記入し、情報を共有しながら、スタッフ会議などで話し合い、実践できるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の病院への付き添いが困難な場合には、職員が代行して付き添うなどの柔軟な対応を行なっています。また、家族が入院するなどの緊急時には「泊まり」サービスを導入し、対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力により、消防訓練を行なっている。また、デイサービスにボランティアに来て下さる方々の歌や踊りを一緒に見学する機会がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	初回利用後の受診に同行させていただき、本人・家族と一緒に主治医の話を聞いています。	基本的には自宅での主治医を継続してもらい、初回、利用後の受診に同行させてもらい、本人・家族と一緒に主治医の話を聞いています。主治医がいない場合にはグループホームに来ている往診の医師を紹介しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「通い」サービス中は、常時職場内の看護師と状況を確認し共有しています。また、在宅時には主治医や訪問看護師と連絡がとれるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、お見舞いに行き、家族とはもちろんのこと、病院のケースワーカーとも退院に向けての話し合いや情報交換をスムーズにできる対応を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	送迎時やカンファレンスの際に、重度化した場合の家族の考え方などを聞き、必要に応じて受診時に同行し主治医からのアドバイスなどを共有しています。	送迎時やカンファレンスの際に、重度化した場合の家族の考え方等を聞き、必要に応じて受診時に同行し、主治医からのアドバイス等を共有しています。小規模では自宅での看取りのお手伝いをすることと捉え、支援する方向でいます。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	機会があるごとに看護師による研修を実施したり、スタッフ会議で話し合っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っています。利用者さんも出来る限り参加し、避難経路を確認しています。地域運営推進会議にて、協力体制について話し合っています。	年2回防災訓練を実施しています。利用者も出来る限り参加し、避難経路を確認してもらっています。地域の運営推進会議にて、地域住民の方々の協力体制等について話し合っています。1月27日の防災訓練には自治会長、区役所に参加して頂きました。事業所にも食料品の備蓄は少しありますが、本部のある「みなみの苑」には充分の備蓄があるので連携をとっています。自宅での防災グッズの賞味期限は確認しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に、利用者の人格を尊重し、言葉遣いや声掛けのタイミングに気をつけています。個人情報の取り扱いにも十分に注意しています。	基本的に、利用者の人格を尊重し、自尊心を傷つけない様に、言葉遣いや声掛けのタイミングに気をつけています。個人情報の取り扱いにも十分に注意しています。職員は入社時に個人情報等に関する守秘義務の誓約書を出し、研修を受けています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ多くの声掛けを行い、本人の思いや希望を表せるように働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、必ず本人に確認を行ってから行動するように支援しています。例えば、散歩に行くかどうか。お風呂に入るかどうか。など…尋ねて本人のペースを理解しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗髪後の整容は、好きなブラシを使って、自分で整えてもらっています。美容液なども用意しています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会には誕生者の希望に合った食事やおやつなどを用意しています。	食材会社の通常のメニューの他、誕生会には誕生者の希望に合った食事やおやつなどを用意しています。食事はシルバーライフの調理隅のものを温めて提供しています。おやつレクでは分担表に沿って一緒に作ったり、本部へ芋掘りに行く等、楽しんでもらっています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定、日々の水分量のチェック、食事量のチェックを行うことにより、利用者の状態を把握し支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、口の中に食べ残しがないように水分摂取を促しています。また、食後には清潔保持の為、歯磨きや入れ歯洗浄などを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録などを参考にし、一人一人の合図に気づき、トイレでの排泄が出来るように見守り、声掛け・促しを行っています。	排泄の記録などを参考にし、一人ひとりの行動を察知し、トイレでの排泄が出来るように見守り、声掛け・促しを行っています。自分で知らせてくれる人もいます。自立で無い方には時間で誘導し、支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、水分摂取には十分注意を行っています。また、食事やおやつにも工夫をし、便秘の予防に取り組んでいます。具体的には、繊維を多く含んだ16穀米や寒天を使ったおやつなどを提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	機械浴と個浴があり、利用者さんの希望を取り入れ、入浴してもらっています。個浴では、入浴剤を入れ温泉気分でゆっくり出来るように支援しています。	機械浴と個浴が設備され、利用者の希望を取り入れ、入浴の支援を行っています。個浴では、入浴剤を入れ、温泉気分でゆっくり入浴出来るようにしています。入浴を嫌がる方には、時間をずらして、タイミングを見計らい、職員を変える等、工夫しながら入浴してもらっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「疲れてない？」・「大丈夫？」などと常に声掛けを行い、本人の状況を把握し休息しやすい環境を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さんが服薬している薬については、薬のファイルに処方箋が挟んであり、職員はいつでも閲覧できるようになっています。服薬支援については、必ず一人ずつ服薬介助を行い、確認をした上で行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日のなかで本人に張り合いや喜びが出来るように、職員は声掛けに配慮し、「ありがとう。」や「〇〇さんがいてくれると助かります。」などの会話があります。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日に近くの公園まで散歩をしたり、季節ごとにお花見や紅葉狩りなども行っています。	お天気の良い日には近くの公園まで散歩をしたり、季節ごとにお花見や紅葉狩りなどにも出かけています。お散歩、外出レク（昨年は苺狩りに行きました）、町内のお祭りや、選挙、一緒に牛乳を買いに行く等、個別にも支援しながら出かける機会を設けています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方に関しては、ご家族了解を得て一定額を本人が所持しています。また、本人の必需品を購入した際には、支払いを行ってもらっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「通い」・「泊まり」サービスを利用時に家族や知人への連絡を希望される方には、必要に応じて対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に入居者への声かけを心がけ、テレビや音楽の音、照明などその時々に合わせて、調節しています。	常に入居者への声かけを心がけ、テレビや音楽の音、照明等、その時々に合わせて、調節し、心地良く過ごせるよう配慮しています。ご利用者の作品では、皆で大作を作り、張り出しています。1日の活動予定はホワイトボードに書き出し、わかりやすく提示しています。一緒に行いたくない方には散歩に行く等、個別に対応しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静かに休みたい時には、宿泊室を利用してもらったり、ソファでくつろいでもらえるように声掛けをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでは、自由に席を移動してもらったり、「泊まり」利用の方が希望すれば、日頃使用している家具などの持込を許可しています。	フロアでは、自由に席を移動してもらったり、「泊まり」利用の方が希望すれば、日頃使用している家具などの持込をある程度許可しています。長期の人は2人程度あり、連泊の場合には、お小遣い程度は預かり、衣類等は最大、衣装ケース4つまでは預かっています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の手摺りやトイレの手摺りを設置しています。また、玄関には椅子が設置されており、座って靴が履けるようになっています。		

目 標 達 成 計 画

事業所

小規模多機能型居宅介護事業所
みなみ栄

作成日

2014年5月15日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所の存在は、理解されてきたものの、事業所と地域住民との交流の場が不足している。	幅広い年代との交流を目指していく。	保育園や学校などの子供たちとの交流の場を設ける。	12ヶ月
2	13	備蓄の確保が出来ていない。	備蓄の確保について検討を進める。	保管場所の確保	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。